

ふるさとの森 土佐堂ヶ森物語



毎年5月5日は縁日の大祭。
藤ノ川・大井川・野々川・竹屋敷と
中心に、たくさんのお祭りや登山
山麓全体の安全や平穏無事、
農林漁業の振興や四万十川の保全
を以て将来を担う子どもたちの健やか
な成長を祈願している。
名行事堂ヶ森山伏節によるお祭り相撲
や相撲の祭りに花を添える。

堂ヶ森の由来

1468年(応仁2年)岡白の一条教房が応仁の乱を
避け京都から荘園のある土佐幡多庄(中村)へ
下向する。
一条公は中村を中心に東西南北に通る道路を
開設する。
これが中村・藤岡・竹屋敷・上山郷(十和)を結ぶ
八里三十八町の人馬道である。
文明七年(1475年)3月24日、足摺金剛福寺の
七地蔵一帯を拝授し、道筋で最高峰の山に
お堂を建立し、安置した。
お堂にちなみ、この山を「堂ヶ森」と呼ばれるようになる。
その後、大正6年、郡道に昇格。
昭和20年、軍部により改修。この道が完成したら
戦争に勝てる」と住民が総動員された。
昭和45年、野々川中村、竹屋敷・藤川の峠越え道
が開通する。

お堂周辺は天然林。
原生種生である
照葉樹林の葉が
はにかみ、やわらかい。

お堂周辺は天然林。
原生種生である
照葉樹林の葉が
はにかみ、やわらかい。

お堂周辺は天然林。
原生種生である
照葉樹林の葉が
はにかみ、やわらかい。

お堂建立時に植えられた
樹々500年のマツノバキ
常緑樹の間の花が
花の世界を演出。

お堂周辺は天然林。
原生種生である
照葉樹林の葉が
はにかみ、やわらかい。

お堂周辺は天然林。
原生種生である
照葉樹林の葉が
はにかみ、やわらかい。

お地蔵さまの由来

一条教房公が、幡多一円の安全を祈念し、
一番高いところから見守り、頂くと願って
こめて金剛福寺の七地蔵のうち一帯を
拝授して安置した。(お堂の北側)
別名
願かけ地蔵とも呼ばれ
勝負ごと、就職、五穀豊穡
選挙、進学、病氣平癒などに
ご利益がある。
*必ず金剛福寺の方向を向いている。

お堂周辺は天然林。
原生種生である
照葉樹林の葉が
はにかみ、やわらかい。

お堂周辺は天然林。
原生種生である
照葉樹林の葉が
はにかみ、やわらかい。

お堂周辺は天然林。
原生種生である
照葉樹林の葉が
はにかみ、やわらかい。

お堂周辺は天然林。
原生種生である
照葉樹林の葉が
はにかみ、やわらかい。

野々川峠より	約2000m
松尾峠より	1300m
郷土の森より	1500m
虫木道より	700m



水と緑を守る会・堂ヶ森奉山会
(大井川・藤の川・竹屋敷支部)
四万十森林管理署

500年のあじさいの
旅人馬子
翁主や家臣が行来
した往還道。
今はその役目を終え
徐々に元の森に戻りつつある。
八里三十八町(約5.16km)
歴史の道、文化の道
緊急時の迂回路としても
役目が待たれている。

堂ヶ森山頂からは
土佐西南地域に
眺望にも連なる山並み
一望できる。
先人が汗を流し、山の頂上
まで手に入れた森林資源を
活かし、後世につなげ、守ろう。

四万十川の豊かな流れは
森に降り注ぐ雨から始まる。
清流の谷には、山間に
生える木々が、山や田畑を
守り、保全している恩恵が
色濃く反映されている。

一里 3.927和
一町 109.08メトル



一条氏家紋(下)藤
この道は唐の関したま。
藤の花が吹く頃は
このあたりが
もっとも
あでやかに
春の訪れを
見せてくれる

立石川に一条公が馬をつなげた
馬つなぎの松が、あまた
大正時代、落雷で枯れた。

2011年
国際森林年